

Library News

京教図書館 ニュース

2011年12月号 No.135

私のすすめるこの1冊

山口 博明 (音楽科 准教授)

『スティーブ・ジョブズ 驚異のプレゼン：人々を惹きつける 18 の法則』

カーマイン・ガロ 著 井口耕二 訳

2011年10月5日、Appleの元CEO（最高経営責任者）スティーブ・ジョブズ氏が逝去しました。このニュースは瞬く間に世界中を駆け巡りましたが、これは彼が広く世界に影響を与えてきた人物であることの証しともいえるでしょう。心よりご冥福をお祈りいたします。

さて、皆様の中にはAppleコンピュータ（Mac）になじみのない方もおられるでしょう。しかしiPodやiPhoneあるいはその影響を受けた数多くの機器やテクノロジーにふれたことがある人は少なくないはずです。

本書では、それらの新製品を世に送り出すときに行ったジョブズ氏の素晴らしいプレゼンテーション（以下プレゼン）を取りあげ、そのプレゼンの秘密を解き明かしていきます。

彼のプレゼンは、コンピュータ業界内だけではなく幅広い分野からも注目され、数多くのビジネス書でもそのスキルが取り上げられているほどのものです。

この様に紹介すると、本書も「ビジネスをうまく進めるための虎の巻」であるように思われるかもしれませんが（読み終えるまでは私もそう思っていました）、実際にはその背景にある「物事を伝える」ための心髄に焦点が置かれています。

本書の冒頭でも紹介されていますが、まずジョブズ氏のプレゼンをYouTubeなどのWeb動画で一度ご覧ください。手始めに「スタンフォード大学卒業式辞」というタイトルのものをすすめます

（日本語字幕付き）。約15分のスピーチには、心に残る素晴らしいメッセージが込められています。この内容についての分析も本書に取り上げられており、このスピーチがいかに考え抜かれたものであるかを解説しています。また「iPhone発表」時のプレゼンも大変面白くおすすめです。

ではここで、本書に興味を持たれた方に向け、あらかじめ2点指摘させていただきます。

まず、ジョブズ氏の立場上、Apple製品が話題の中心となるため、本書でも数多くのApple製品が登場します（特に最近10年間のもの）。これらの製品についての特別な知識はなくとも内容の理解はできるでしょうが、Appleのホームページを参考にすると、より楽しくなるかと思えます。また、ジョブズ氏についても、ある程度の予備知識があった方が良いでしょう。

そして、彼の言動には大変なカリスマ性があった事も確かです。どうぞ適度な距離感を持ってお読みください。

最後に…

「物事を伝える」「心を伝える」のに大切な、心に留めおくべきことが、数多く取り上げられています。あなたの未来を、ちょっぴり変えるかもしれない本書をぜひ「体験」してみてください。

『スティーブ・ジョブズ 驚異のプレゼン
：人々を惹きつける 18 の法則』

カーマイン・ガロ著 井口耕二訳

発行所：日経BP社 発行年：2010年

ISBN：9784822248161

購入手続き中



第17回 「うたとおはなしの会」 報告



開催年月日 : 2011年11月3日(木・祝) 11:00~12:00

第17回「うたとおはなしの会」が、11月3日(文化の日)に「幼児教育演習室」で行われた。昨年までは3年連続クリスマスシーズンの開催であったため、秋の開催は4年ぶりとなり、待ちかねた約120名の親子で会場は満員となった。

まず、オープニングで5匹の子ぶたのパペットたちが軽快な「5匹のこぶたのチャールストン」に合わせて踊り始めると、おかあさんの膝の上に抱かれています赤ちゃんまでリズムに合わせて体を動かすなど、楽しい会の幕開けとなった。つづいて、パネルシアター「ふとんのなかで」は、ふとんの中には誰が眠っているのかイメージを膨らませ、学生の歌いかけに子どもたちは大きな声で答えていた。そして、みんなが大好きな「大きなくりの木の下で」を楽しんだあと、紙芝居「でっかいぞでっかいぞ」(リスの植えた栗の実が、とびきり大きな栗の実になるという、ユニークな展開)では、ラストシーンで大きな栗が出てくると、会場中が笑いの渦に包まれた。

また、毎回大好評の楽器遊びコーナーでは、芸術の秋にふさわしく「山の音楽家」の楽器遊びを楽しんだ。まず、山の動物たちがそれぞれ本物の楽器(バイオリン、フルート、クラリネット、コントラバスなど)をもって登場し、ソロパートで素敵な音色を奏でると、うっとり聞き入る子どもやメロディーを歌いだす子どもの姿などが見られた。動物の扮装をした学生からそれぞれの楽器の名前を教えてもらったり、そのあと子どもたちも演奏に加わって「山の音楽家」の大合奏になった。4歳と2歳の女兒と参加した母親は「本物の楽器を間近で見せてもらい、2人とも大喜びでした。素晴らしい経験ができて本等によかったです。」と感想を述べていた。

そして、いよいよ最後の出しもの、人形劇では、ウクライナ民話「3びきのくま」を上演した。人形の製作は前回大好評だった「こぶとりじいさん」に引き続き、京都市で人形工房を主催する平野氏に依頼した。「3びきのくま、3びきのくま、すてきなかぞく～」と軽快に歌いながら熊の親子

が登場すると、子どもたちは音楽に合わせて体でリズムをとったり、身をのりだして人形たちの動きを追ったりしていた。途中、舞台の下の方で人形が見えにくくなるシーンもあったが、子熊のミシュートカに声をかけたり応援したりするなど、メルヘンの世界をたっぷり楽しむ子どもたちの姿が印象的だった。

エンディングでは、子どもたちに大人気の「マルマルモリモリ」を参加者全員で踊り、閉幕した。帰りには学生手作りのまつぼっくりのオーナメント(学内で採集したまつぼっくりを使用)と栗の折り紙をお土産にもらい、3匹のくまの人形たちと一緒に記念写真をとるなど、今見たばかりのおはなし余韻を楽しむ親子の姿も見られた。終了後のアンケートでは「2歳半の娘が1時間、ずっとカブリつきでした。」「年2回でなく、毎月やってほしい!」「このような会に参加できる子どもたちは幸せやなあ～と思いました。」「子どもの幸せな顔は大人が育ててあげるものです。教育大の学生さんが幸せな子どもをたくさん育てて下さることを願っています」など、たくさんのお褒めをいただいた。

参加者からの叱咤激励のことばを励みに、より子どもたちの心に届く内容となるよう春の開催にむけて学生と共に努力していきたい。

(幼児教育科 平井恭子)

<写真は1場面>



終了しました！

第16回 教科書展 中等教育用教科書（家庭科編） —教科書からみた家庭科の戦後史—

今年度は、11月8日(火)から11月28日(月)にかけて、中等教育用の家庭科教科書を展示・解説いたしました。

例年と同じく図書館所蔵の教科書を展示するとともに、京都府立高校が全国に先駆けて取り組んだ、家庭科の男女共修運動に関する資料も展示しました。また、会場にディスプレイを設置し、展示教科書の内容を画像で見られるようにしたところ、なかなか好評だったようです。期間中は、約200名の方がご来場されました。

なお、今回の展示では、本学家政科の井上えり子先生に多大なるご協力をいただきました。厚く感謝申し上げます。



教育資料館「まなびの森ミュージアム」がオープン！

教育資料館「まなびの森ミュージアム」が11月12日(土)に正式オープンしました。

オープン当日は、学園祭やホームカミングデーもあり、卒業生、地域住民等125人が見学に訪れました。また、開館セレモニーでは、吉村作治氏(早稲田大学名誉教授)の基調講演「まなびのよろこび～私を魅了する古代エジプトの世界～」と、岡本正志・本学環境教育実践センター教授の講演「科学の歩みと理化学実験器具」があり、学内外からの参加者、約250名が熱心に聞き入っていました。なお、開館記念企画展「理化学実験器具の世界」は12月9日(金)まで開催しています。詳しくは、まなびの森ミュージアムのホームページをご覧ください。(<http://manabinomori.kyokyo-u.ac.jp/manabinomori.html>)

***** 冬季休業に伴う長期貸出について *****

下記のとおり長期貸出をしますので、ご利用ください。

対象	院生・教職員	学部生
貸出期間	11月29日(火)～12月10日(土)	12月13日(火)～12月24日(土)
貸出冊数	12冊	7冊
返却期限日	2012年1月10日(火)	

*視聴覚資料は除きます。

*長期貸出図書の貸出更新(延長)はできません。一度返却してから翌日以降貸出の手続きをとってください。

*一般利用者・卒業生の方の長期貸出はできません。

～ 図書館開館スケジュール ～

2011年 12月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
				●	●	▲
4	5	6	7	8	9	10
休	●	●	●	●	●	▲
11	12	13	14	15	16	17
休	●	●	●	●	●	▲
18	19	20	21	22	23	24
休	●	●	●	●	休	▲
25	26	27	28	29	30	31
休	●	▲	休	休	休	休

2012年 1月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
休	休	休	休	▲	●	▲
8	9	10	11	12	13	14
休	休	●	●	●	▲	休
15	16	17	18	19	20	21
休	●	●	●	●	●	▲
22	23	24	25	26	27	28
休	●	●	●	●	●	▲
29	30	31				
休	●	●				

<カレンダーの見方>

日付	9:00～21:00
●	
日付	9:00～17:00
▲	
日付	休館日
休	

12月28日(水)～2012年1月4日(水)は休館

1月13日(金)は大学入試センター試験の準備のため17時閉館

1月14日(土)は大学入試センター試験のため休館

奈良電気鉄道の澱川橋梁と高架橋の神話

武島良成

武島良成(社会科学科 准教授)

京都教育大学紀要 No. 119 pp. 1-16. 平成 23 年 9 月

筆者は本学で、①「宇治川(澱川)に架かる近鉄(建設時は奈良電)の橋梁に橋脚がないのは、軍が演習を妨害されないよう要求したからだ」、②「橋梁の北方が高架橋になったのは、用地を持つ軍が地下化を要求し、それに対して酒造業者が地下水が絶たれると反発したのを受けた措置だ」というような言説をしばしば耳にしてきました。図書館にも、本学の教員を含む多くの研究者やライターが記した、この種の著作が並んでいます。ですが、それらの中で根拠が明確なものは1点もありません。実際のところどうだったのかを検証しようというのが、本論文執筆の当初の動機でした。

結論としては、①の理解には微修正が必要で、「現地軍は無橋脚を要求したが、陸軍省は1本の設置を許した。ところが、大典(昭和天皇の即位礼)に間に合わせるには再設計の時間がなく、結局無橋脚でつくった」というのが実態だったようです。また、②は全く見当外れであり、「軍は橋梁の北方を地下化する要求などしなかった。要求したのは踏切が2つ重なるのを嫌った京都府であり、工事の規模が過大に報じられたこともあって酒造業者の強い反発を招いた。結局、衆議院選挙で取締役の長田桃蔵(政友会の代議士)が地元票を失って落選したことを契機に、奈良電は住民の要求を聞くことにし、10万円を追加して高架化した」、というのが真相だったようです。

本号には、他にも京都での私鉄建設に関する論文を2本載せました(注1)。それらの主題は、省庁と京都市の駆け引きの様相を見ることにありますが、これまでの鉄道研究の妥当性を検証することも意識しています。興味がある方は読んでみてください。

注1) 武島良成 “奈良電気鉄道と都市計画第3号線の交差問題 —省庁の統制機能をめぐって—”

『京都教育大学紀要』 No. 119 pp. 17-32. 平成 23 年 9 月

武島良成 “叡山電鉄と京都市電の交差問題 —都市計画法準用下の自治と統制—”

『京都教育大学紀要』 No. 119 pp. 49-70. 平成 23 年 9 月

本タイトルの論文は京都教育大学紀要 119 号に掲載されています。

後日、京都教育大学リポジトリ「クエリ(KUERe)の森」<http://ir.kyokyo-u.ac.jp/dspace/> にも公開予定です。

●京都教育大学附属図書館ホームページはこちらから <http://lib1.kyokyo-u.ac.jp/>

●携帯版図書館ホームページはこちらから

<http://lib1.kyokyo-u.ac.jp/m/mhome.htm>

右記のQRコードからも

アクセスできます



京教図書館 News No. 135 (2011 年 12 月号)

発行日: 平成 23 年 12 月 1 日

編集発行: 京都教育大学附属図書館

内容に関するお問い合わせ先: library@kyokyo-u.ac.jp